

公的な
支援制度も

まずは無料の支援で省エネ相談!

1日でエネルギーのムダを見つけます!

無料省エネ診断

今までに
約**2万社**
が受けています!

省エネ診断のお申し込みや
様々な事例紹介

<https://www.shindan-net.jp/>



エネルギーの専門家が現場に赴き、原則1日でエネルギーの使用状況を診断します。診断の結果、お金をかけずに出来る省エネと、設備投資による省エネを、具体的な省エネ効果とともに、後日報告書にて提案します。これまでに幅広い業種の方々が受診し、省エネによるコスト削減を実現しています。

省エネのお悩み、なんでも相談!

省エネルギー相談
地域プラットフォーム

全国に
相談窓口があります!

お近くの地域の
相談窓口を検索

<https://www.shoene-portal.jp>



お近くの省エネルギー相談地域プラットフォームが経営状況や課題に合わせ、さまざまな分野の専門家をコーディネートしながら皆様と伴走しつつ省エネ取り組みに関するサポートをきめ細やかに行います! 豊富な支援実績を持っているエネルギーと経営の専門家が、経営改善につながる省エネ提案や、お得な補助金の紹介・申請のお手伝いを行います!

省エネ設備・機器の導入費用を一部補助!

平成30年度エネルギー使用合理化等事業者支援事業の概要

事業者の省エネ取り組みを支援します! **省エネルギー設備への入替支援**

I. 工場・事業場単位 工場や事業所において、既存の設備からエネルギー消費効率の高い設備に入替えて省エネ対策を行う場合などに、補助金が活用できます。

補助対象経費	設計費、設備費、工事費	例: 本館空調熱源の半分を既存のガス熱源から高効率電気熱源へ更新するなど省エネ設備の導入とエネマネ事業者を活用し、総工事費8,000万円をかけて、ホテルを改修の場合 8,000万円 × 補助率1/2 = 4,000万円の補助
1事業あたり補助金限度額	【上限額】 15億円/年度 【下限額】 100万円/年度	

II. 設備単位 下記のような設備を省エネ性の高い設備に更新する場合も、補助金が活用できます。



補助対象経費	設備費	例: ホテルにて、蒸気ボイラをみの運用から運用効率の高い業務用ヒートポンプ給湯器と高性能蒸気ボイラを導入し、併用運用としてエネルギーの使用量を削減する場合 3,600万円 × 補助率1/3 = 1,200万円の補助
1事業あたり補助金限度額	【上限額】 3,000万円 【下限額】 30万円	

改正省エネ法による、税制優遇 **省エネ促進税制**

省エネ対象設備を導入する際に、税制優遇制度があります。
省エネ対象設備: ボイラー、工業炉、産業用ヒートポンプ、コージェネレーション設備、モータ、変圧器等

詳細は「省エネポータルサイト」へ!

http://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/



パンフレットのダウンロードはこちら!

http://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/media/



専門家のサポートで無理なく・おトクに経営改善。

ホテル・宿泊業 ・旅館業の皆様

コストカットにつながる情報、教えます!

コストは
大幅ダウンしたのに、
お客様満足度は
向上!?



いったいどうやって?!
ヒントはここの中

その答えは、
“省エネ”です!

“省エネ”が
コスト削減も、
業務改善も、
人材育成も…
解決します!

経営課題を見つけ、一つひとつ取り組むことも重要ですが、複数ある課題を同時に解決していく視点を持つことが、近年注目され始めています。

例えば、コスト削減に有効な省エネルギー。

経営課題に取り組むことで結果として省エネルギーもできたという事例や、省エネルギー対策を実施することで同時に他の経営課題の解決につながった、という事例がたくさんあります。

表紙のキャッチコピー「**コストは大幅ダウンしたのに、お客様満足度は向上!**」は実際に宿泊業でホテルの建

物を環境性能の高い建物にした場合、省エネによる光熱費の大幅削減という経済的メリットに加え、断熱材や自然光の活用などで快適性を向上させることができたという事例です。

国の支援制度を上手に利用することで、省エネルギーや経営のプロの支援を受け、効率的に、そしてお得に省エネ対策に取り組むことが可能です。

ここでは、一般社団法人省エネルギーセンターの省エネ事例集や省エネ診断事例、省エネルギー相談地域プラットフォームのヒアリング事例などから集めたホテル・宿泊業・旅館業の皆様の声をご紹介します。

 **きっかけは様々…**

震災の影響で大規模停電を回避するための節電要請に応えたことがきっかけ
ボイラ、吸収式冷凍機、変圧器等の設備設置から23年が経過し更新を検討した

 **省エネ≠我慢。特別なことはしなくて良い!**

真空式温水機の空気比を適正な値に調節するだけで灯油使用量を削減できた
ボイラの基準空気比を定期点検時(通常は年2回程度)に調整するだけでエネルギー消費量を抑えられた

 **こんなにコスト削減できた!**

外調機の換気用外気導入量を削減し、冷暖房用熱源の蒸気を低減、
ボイラ燃料使用量を削減することにより、

年間1,000万円以上のコスト削減

年間
1,000万円以上
カット

空調及び厨房システムのトラップ類更新により、
蒸気使用量を1日あたり6,000kg削減

1日あたり
6,000kg
カット

温水配管の保温対策で**年間18万円以上のコスト削減**

年間
18万円以上
カット

排熱をヒートポンプで給湯設備やロードヒーティングに再利用することで、
**以前の石油燃料の使用量に比べ
年間約50%のコスト削減!**

年間
約50%
カット

 **生まれた副次的メリット**

省エネによるコスト削減効果を見た
従業員の省エネ意識が向上した

環境性能の高い建物にしたことにより、外に比べ温度変化が少なく、エアコンの最低/最大温度を抑えたが、お客様から「冬でも暖かい。」「部屋や廊下が明るい。」という声をいただいた
**実際、冬でも部屋着(七分袖・ハーフパンツ)で
歩く姿も多く見られる**

使用エネルギーの「見える化」により従業員個々に
省エネ意識が芽生えた

省エネ事業を行ったことにより、
地元メディアから取り上げられた

地域に密着したLPガスの活用を考え、マイクロガスコージェネレーションを導入
電気料金を抑えるだけでなく、
災害時の最低限の電力、熱源の確保を可能にした

公的支援が充実!! カンタン・無料でご相談を!!